

I

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

必然性はみずからのうちに根拠をもつ。だから内発的である。言い換えれば文化的必然性とは伝統的なものということになる。具体的には文化、宗教、道徳などに関わる原理・原則である。中心軸である。いずれその詳細はあとで検討することにして、今の段階でいえることは文明国の中での日本の **A** である。ハンチントンは『文明の衝突』のなかで西欧文明（中南米アメリカ・北米アメリカ・オーストラリアを含む）、中華文明、イスラム文明、インド文明などに伍して、日本が一国で一つの文化圏を形成していると主張している。彼の所説には問題がないわけではないが（たとえば文明分類の尺度、この一点にかぎっていえば私は諸手を挙げて賛成する。日本はヨーロッパと対立するだけでなく、隣国の中国や朝鮮とも対立する。ここではユーラシア大陸対日本列島という図式が描けるように思われる。

B

日本人にはこの対決のスタンスがなぜか欠落している。対決回避、これが日本文化を形成する一つの原動力になっている。真つ向からの対決は避けて外国の文化を取り込む。しかし自国の文化の枠組み（基盤）はしっかりと護る。しなやかにして、したたかな異文化受容のスタンスである。世界を見渡してもユニークなものといえるだろう。

（中略）

日本人は「物」にこだわる。しかもそのこだわり方は西洋人とは異なる。西洋人は「私」と「物」を分ける。「物」と「私」の間に距離を置く。マクロの視点を取る。すると「物」の **C** が見えてくる。それにひきかえ、日本人は「私」と「物」を分けない。「物」にすり寄る。ミクロの視点になる。すると「物」の **D** が見えてくる。「無常の美」や「物のあわれ」とはそうしたミクロの視点がふと捉えた自然の「妙」である。「神ながら」「仏ながら」「芸術の立場からは「造化にしたがひ、造化にかへれ」「松のことは松にならへ、竹のことは竹にならへ」（芭蕉^{ばしやう}）ということになるだろう。ここに見られるのは「容」偶然主義としてのレンマの情理である。

先ほど引いた文章中の「自然法爾」は親鸞の有名な言葉である。真理に則つてあるがままの状態にあること、阿弥陀仏の御心のままに身をあずけたありかた、要するに他力本願の自然体（大悟）を表す言葉である。「神ながら」ではなく「仏ながら」ではあるが自己を捨てた、あるいは自己のない「無心」を表現している点では神道と仏教は軌を一にしている。われわれは、西田を導きの糸にして「物ゆく道」を尋ね、心の自然体（無心）に行き着いた。

日本人は「物」にこだわる。ただし、そのこだわりは「所有」とはまったく関係がないことに注意すべきだ。所有が問題になるとき所有する主体（われ）が問題になる。自己主張する私の存在が前景に出る。ところが「もの」にこだわる日本的私は、「無私」である。私がないのだ。「物」になりきるとは「物」の側に立つて自分を見ることでもある。このあたりの消息は道元の『正法眼蔵』（現成公案）の有名な文章についてみるのが一番だ。

自己をはこびて万法を修証するを迷とす、万法すすみて自己を修証するはさとりなり。「……」仏道をならふといふは、自己をならふ也。自己をならふといふは、自己をわするるといふは、万法に証せらるるなり。

「自己の側から対象に働きかけて、物事の真実を明らかにしようとする」ことが迷いである。対象の側から物事の真実がおのずと明らかにされるのが、悟りである。「……」仏道を学ぶということは自己を学ぶということである。自己を学ぶということとは自己を忘れることである。自己を忘れるということは、すべてのものが自然に明らかになることである。」

このくだりは仏教的悟りの本質と同時に、日本人の心の本質（心性）をも語っているように私には思われる。日本人の心の真実を先ほどは「物にゆく道」として確認したが、ここでは「物からの道」として捉え返されている。「物」になりきり、「物」の側から自分を見る視点——これが日本人の心を解く鍵だ。これは「物」についてだけでなく、実は対人関係にも見られるスタンスである。

この日本人に独特な対人関係のスタンスを問題にしたのが、森有正の「私的二項方式」あるいは「二項関係」である『経験と思想』。この考え方をかいつまんで説明すれば次のようになる。日本人の人間関係は「我—汝」という対立的な「切れた」関係ではなくて、「汝—汝」という親密な「つながった」関係である。つまり日本的な「私」は相手に「F」に向き合うのではなくて、いったん迂回し、相手の側から「G」に見られた私である。「汝」（相手）の鏡に映し出される「私」である。日本的な「私」は相手の側に身を置き、相手の反応を常に意識しながら行動する。自己を強く主張せず、むしろ相手を立てる。日本的「二項関係」は関係の親密性と方向の垂直性（上下関係）という二つの特徴をみせる。

もっとも、森自身は「二項関係」を否定的に捉えていた。なぜなら、こうした二項関係が閉ざされたウチという世界を形成し、その中での相互陥入という居心地のよい甘えの関係をもちたらずと考えたからだ。ひいては、そのことが自立した個人の形成を妨げるとも考えたのだ。そして森は、この「二項関係」を手がかりにしてヨーロッパを参照しながら、親子、社会、歴史、日本語などさまざまな問題に目を向け、日本人、日本文化のありかたに批判的な考察を展開した。しかし私は「二項関係」を、日本人の心のありかたを巧く捉える概念装置として評価する。

森の観察からはこぼれてしまったが、日本には非常に興味深い言語習慣がある。子供に話しかけると、母親が「ママは」「お母さんは」と言う。また子供が生まれると、自分の母親を「お母さん」と呼ばずに「おばあちゃん」と呼ぶ。あるいは他人の子供に向かつて「おじさんはね」と話かける。これに類する表現は日本語でよく見られる。そこに見られるスタンスは共通で、話し相手になりきって、相手の視点から自分を捉え返して表現しているのだ。「恥の文化」も私的「二項関係」の文化版である。日本人は他人の動静が気になり、相手の評判を気にする。この日本人の習性を見事についたジョークがある。

船が遭難し、救命ボートは定員オーバーです。誰かに諦めてもらうしかありません。船長はどう説得したでしょうか。
アメリカ人に対しては、

イギリス人に対しては、

I

ドイツ人に対しては、

J

日本人に対しては、

K

ここで揶揄^{やゆ}されているのは、日本人の主体性のなさである。我（原理・原則）のなさである。私の周りにいる外国人の同僚が日本人にはなにかが欠けているとよく口にすることが、まさにこの点を衝いているのだろう。私の強い彼らには、我の無いということがどういうことか理解できないらしい。

私的「二項関係」は「容」偶然主義の人間関係版と言えるだろう。

「容」偶然主義と芸術の関係はここまで随所^{そじょう}で組^{くみ}上に載せてきたので、今度は「容」偶然主義を文化の領域で確認することしよう。

日本は文化においても、外発的な「容」偶然主義に従っている。その昔の仏教の伝来、中国文化の移入、近くは欧米文化の輸入にそのことがよく示されている。そのすばやい反応は驚くほどだ。相手の方が上であると認めたら、それまでの原理・原則などあっさりとはり出してしまふ。その詳細については後ほどゆくり取り上げることにするが、とりあえず身近な例で基本的確認をしておこう。

たとえば明治期に西洋画・洋楽が本格に取り入れられると、伝統的な日本画・邦楽は省みられなくなり、学校教育では「西洋のもの」しか教えられなくなってしまった。もし日本のものが本当に劣っているのであれば仕方がないが、そうでもなさそうなのだから不思議である。フェノロサのような外人に日本の美術のよさを教えられる始末である。

とにかく、日本人の変わり身の早さは目をみはるほどだ。このことは、日本人が内発的な自前の原理・原則（必然性）をもっていないことをよく示している。もしそうしたものがあれば、とうぜん激しい葛藤があったはずだ。西洋文化を前にしたときの中国や朝鮮のように。日本は外発的な他者（異国）の原理をすんなりと受け容れてしまふのである。

異文化が交差したときにその文化の特徴が一番よく現れる。日本の場合を考える上でも大いに参考になると思われるので、まずヨーロッパの場合を手短におさらいしておこう。

日本は近代ヨーロッパ文化を改^かめとして取り入れようとしたが、その当のヨーロッパ人は異文化に一体どのように接したのだろうか。

はじめに結論をいっておけば、ヨーロッパ文化とは本当に恐ろしい文化である。おのれの原理・原則を貫き、他にも強要する独善的^{どくぜん}の侵略的文化である。自分たちだけが人間であり、非ヨーロッパ人を「虫けら」同然に扱う傲慢不遜な文化である。「われわれにとっては、人ということの本当の意味はヨーロッパアメリカ人のことであつた。その他は「土人」であつた」（リン・ホワイト／青木靖三訳『機械と神』）。

西洋流の文化的必然主義とは、世界の中心に自己を定位し、自分の物差しで世界を解釈する自己中心的なスタンス（中華思想）のことだ。すでに示唆したように下世話でいう「我の強さ」である。要するに、ヨーロッパ人は我が強いのだ。それも並たいていの強さではない。多くの国が国境を接してひしめき合う厳しい状況下では、原理・原則をかげないと（我を張らないと）、やっていけないという事情もあるのだろう。そして我が強いということは、思い込みの激しいことであり、こだわりの強いことである。思い込みの激しいヨーロッパ人が一神教のキリスト教をみずからの宗教としたことは、興味深い事実と言わなければならない。我が強い宗教を取り入れたからヨーロッパ人は我が強くなったのか。はたまた、我が強いヨーロッパ人がキリスト教に格好の思想的バックボーンを見いだしたのか。話は「卵と鶏」のたとえめくが、とにかくキリスト教を信じるヨーロッパ人が恐ろしく排他的で、独善的であることは否めない。

すでに指摘したようにヨーロッパの哲学は必然性を求めたが、必然性（原理・法則）を求める心性とその文化の独善性（自己中心性）は通底している。必然性は自己の内部にしかその根拠を見いださない。必然的なものを求めるヨーロッパ人は、「外部」あるいは「他者」に拠り所を求める必要はない。また「外部」あるいは「他者」を認めようとしめない。建国以来「外部」を手本にして文化を形成してきた日本とはえらい違いである。

一 神教のキリスト教を信じるようになってから、ヨーロッパ人の排他性・独善性に拍車がかかったことは事実だ。キリスト教を信じない人間は救われない人間であり、ヨーロッパ以外は外部である（すでにギリシア人たちは自分たち以外の人間を「バルバロイ」（野蛮人）と蔑んだ）。「アメリカ大陸発見」——この呼び方（受けとめ方）はヨーロッパ人の独善主義（思い上がり）を示して余りある。それは「発見」でも何でもない。すでに土着の人々が生活していたのだ。ヨーロッパ人が知らなかったただだ。彼らは土着の人々を自分たちと同等の「人間」とは認めなかった。存在しているのに目に入らず、無視したのである。

ヨーロッパは非ヨーロッパ的世界を政治的に侵略しただけではない。文化的にも侵略した。非ヨーロッパ的世界を無理やりヨーロッパ化しようとした。たとえばキリスト教の布教。ヨーロッパ人は土着の「文化」を認めなかった。ヨーロッパ人以外は野蛮人であり、文明の恩恵に浴していない、同情すべき、あわれな人間と思い込んでいた。こうしたヨーロッパの文化的侵略は悪意ばかりではなく、善意からも発していたことは認めなければならない。にもかかわらず、そこにはやはり普遍的に真理であるヨーロッパ文化（必然性）を蛮地に施してやるのだという傲慢を指摘することができる。土着の人々からすれば、それは文化の押しつけであり、余計なお節介であったはずだ。これまでの世界の歴史のなかでヨーロッパ文化ほど侵略的なものはなかった。近代科学がもたらした圧倒的な軍事力のせいである。

（野内良三著『偶然』から読み解く日本文化——日本の論理・西洋の論理』大修館書店 二〇一〇年より引用 問題作成の都合上一部変更）

問一 空欄部 A に入る語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 1。

- ① 文化的対決性
- ② 文化的孤立性
- ③ 文化的衝突性
- ④ 文化的共存性
- ⑤ 文化的文明性

問二 空欄部

B には、次の枠内のイ～ホで構成された文章が入る。論旨が通る順に並べ替えたものとして最も適切なものを①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 2。

イ 日本人はこれを不思議に思うようだが、しかしこれが国際社会の常識なのだ。自分(自国)以外は異人(敵)なのだ。
ロ 日本以外の国々は政治や文化における内発的な原理・原則をにかけて発言・行動している。
ハ だから問題は対話ではない、対決なのである。
ニ よその国の島でも自分のものだと言棄する。戦争末期のどさくさに乗じて領土を拡張する。
ホ この自他の区別、これがヨーロッパの人と文化の基底にある。

- ① イ ↓ ホ ↓ ハ ↓ ロ ↓ ニ
- ② ニ ↓ ハ ↓ ホ ↓ イ ↓ ロ
- ③ ニ ↓ ホ ↓ ハ ↓ イ ↓ ロ
- ④ ロ ↓ ハ ↓ イ ↓ ニ ↓ ホ
- ⑤ ロ ↓ ニ ↓ イ ↓ ホ ↓ ハ

問三

空欄部

C、D に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 3。

- ① C…漠然性 D…偶然性
- ② C…偶然性 D…漠然性
- ③ C…必然性 D…確実性
- ④ C…必然性 D…偶然性
- ⑤ C…偶然性 D…必然性

問四

傍線部 E「軌を一にしている」の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 4。

- ① 考え方ややり方が同じであること。
- ② 考え方ややり方が異なること。
- ③ 時を同じくすること。
- ④ 時を逸すること。
- ⑤ 機会を一つにすること。

問五 空欄部 、 に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。
解答番号は 。

- | | | |
|---|-------|-------|
| ① | F…直接的 | G…間接的 |
| ② | F…間接的 | G…直接的 |
| ③ | F…親密的 | G…間接的 |
| ④ | F…直接的 | G…対立的 |
| ⑤ | F…親密的 | G…対立的 |

問六 空欄部 、、、 には、「アメリカ人」、「イギリス人」、「ドイツ人」、「日本人」を船長が説得しようとした文章がそれぞれ入る。空欄部 に入る「日本人」を説得しようとした文章として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 私が助かりたいので、あなたはご遠慮ください。
- ② あなたは、飛び込まなくてはならない。それがわたし、船長の命令です。
- ③ あなたは飛び込まなくていいんですか？ ほかの方はみなさん飛び込むと言っていますよ。
- ④ あなたを紳士と見込んでお願いします。
- ⑤ ここで自己犠牲の精神をみせればヒーローになりますよ。

問七 傍線部「異文化が交差したときにその文化の特徴が一番よく現れる」とあるが、本文中で書かれているヨーロッパの文化の特徴を次の形式に従って五十字以内で記しなさい。ただし「外部」「私の強さ」「排他的」「侵略的」の四語を必ず用いること。解答番号は 。

ヨーロッパの文化は である。

問八 次の1～3の傍線部にあてはまる漢字を、それぞれ①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 7 9

1 コウリ主義とは、人間が、より多くの利益や幸福とより少ない苦痛を得ることを追い求めるものである。 7

- ① 攻 ② 交 ③ 高 ④ 功 ⑤ 効

2 賛成がアットウテキ多数を占める。 8

- ① 等 ② 倒 ③ 当 ④ 踏 ⑤ 党

3 社会のチツジヨを乱す。 9

- ① 所 ② 序 ③ 除 ④ 徐 ⑤ 助

問九 次の問いに答えなさい。解答番号は 10 12

1 「温故知新」の意味として適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 10

- ① 前に学んだことや昔の事柄をもう一度調べたり考えたりして、新たな道理や知識を見出し自分のものとする事。
② 古いものを捨て、新しいものを取り入れること。
③ 古いものがだんだんなくなって、新しいものに入れ代わる事。
④ いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。
⑤ 人はよい行いをすればよい報いがあり、悪い行いをすれば悪い報いがあるということ。

2 次の空欄部「」に合う最も適切な語を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 11

設備の老朽化対策は「」の課題である。

- ① 僅少 ② 過剰 ③ 壮麗 ④ 喫緊 ⑤ 甚大

3 「ダイバーシティ」の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 12

- ① 飛び込むように宙に身を躍らせること。
② ダイビングを楽しむ人が集まる街のこと。
③ 国家などの境界を越えて広がり一体化していくこと。
④ 包括・包含すること。
⑤ 企業で、人種・国籍・性・年齢を問わずに人材を活用すること。

Ⅱ

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

承認欲求は人間にとって「最強」の欲求である。人は認められることで直接その欲求を満たさず、芋づる式に有形無形の報酬を獲得し、関連するさまざまな欲求も充足できる。また承認欲求があるからこそ、尊敬や信頼といった好ましい対人関係も構築できる。まさに、いいことづくめのようである。

ところが、あることをきっかけに、こんどは獲得した報酬や築き上げた人間関係にとらわれるようになる。しかも、そこから容易に逃れられない。それが「承認欲求の呪縛」である。

(中略) ある男子学生は小学校から中学校まで無遅刻無欠席を続けていた。親はそれが何よりの自慢で、近所にも言いふらしていた。ところが高校に入るとだんだんとそれが負担になり、学校に行くのが嫌になってしまった。

そしてあるとき、ついに学校を休んで公園をフラフラと散歩した。それが親にばれると、叱られたわけでもないのにもう学校に行けなくなり、欠席が続いて卒業さえ危ぶまれるようになったという。

また、ある女子学生は水泳が得意で中学生時代には地域の記録をたびたび塗り替え、大会でも勝ち続けていた。それとともにコーチの期待は高まり、次は県大会、その次は全国大会というように目標が高くなっていった。しかし、だんだんと自分のためでなくコーチのためにがんばっているのではないかと感じるようになり、コーチの期待と反比例するように泳ぐことの楽しさは失われ、競技の成績も落ちていった――。

(中略)

ここにあげた具体的な事例からも、周囲の期待が「承認欲求の呪縛」をもたらす一つの要因だということを理解してもらえたと思う。ただし正確にいうと、本人がその期待をどれだけ意識しているかが問題であり、実際にどれだけ期待されているかが問題ではない。したがって、それを「認知された期待」と呼ぶことにしたい。

(中略) いくら「認知された期待」が大きくても、やすやすと期待に応えられるなら何も問題はない。呪縛に陥るかどうかは、本人がその期待からどれだけプレッシャーを受けているかによる。

いずれにしても、「認知された期待」から受けるプレッシャーこそが「承認欲求の呪縛」の正体だといえる。

(中略)

新聞に、次のようなエッセーが載っていた。筆者は芸術家だったか文筆家だったか忘れたが、彼はその道の大家である師匠に「いつまでもたっても社会的に評価してもらえない」とこぼした。すると師匠は「実力があっても評価されないのは幸せだ。私のように実力以上に評価されるのはどれだけ苦しいか」と答えたそう。

A 私の周りを見渡しても、なかなか認められないと嘆く人は何人もいるが、実際に多少なりとも認められた人を思い浮かべてみると、その人が幸せな人生を送っているかといえば、必ずしもそうではないようにみえる。

一般的に言えば、華々しく賞賛され、大きな名誉や名声を得た人ほど、その反動も大きくなりやすい。

(中略)

記憶に新しいところでは、二〇一八年冬の平昌オリンピック、スキージャンプで銅メダルを獲った高梨沙羅も、周囲の大きな期待に苦しんだ一人である。二〇一四年のソチオリンピックでは直前のワールドカップで圧倒的な強さを発揮し、金メダル確実といわれながら本番で記録が伸びず、四位に終わった。

彼女がソチオリンピックの後、次を見すえて何とかプレッシャーを克服しようと懸命に努力していることは、彼女が発する言葉の端々からも、その行動からもうかがえた。それまでのあどけなさが残る容姿から、急に大人っぽいルックスに変身したときには驚いた人も多かったことだろう。またテレビのCMに登場し、明るいキャラを披露するようになったのも、自分の殻を打ち破ろうというねらいがあったのではなかろうか。

二〇一七年に大相撲で一九年ぶりの日本出身横綱となり、二〇一九年一月場所中に引退した稀勢の里も、昇進前には大相撲ファンの期待を一身に集めながら、その期待を何度も裏切ってきた。第一人者の白鵬はくほうを真つ向勝負で何度も倒し、「地力は抜群」といわれただけに、彼自身の「認知された期待」はいつそう大きかったに違いない。

人一倍まじめな性格の彼がそれを真正面から受け止め、大きなプレッシャーを感じていたことは、取り口だけでなく、土俵上や土俵下で瞬きを繰り返す姿などにもはつきりとあらわれていた。さらに仕切りながら笑みを浮かべるのを見て、異様な感覚をおぼえた人も少なくなかったはずだ。彼がプレッシャーをはねのけようと、試行錯誤しこうさくごしていたことは容易に想像できる。

(中略)

いったん頂点を極めた人がもがき苦しんだり、不幸に陥ったりする姿を目にして、なぜそこまで承認にとらわれたのか、なぜ周囲の評価や期待に応えようとしたのかと不思議に思う人が多いのではなかろうか。また、それは成功者など一部の人のだけに当てはまる話だといわれるかもしれない。

B 人はだれでも意識しているか否かはともかく、何らかの形で周囲から承認を得ている。そして、姿の见えない承認にとらわれてしまう。

まず知っておいてほしいのは、承認によって得られたものの多くは、承認されなくなったら失cわれるということだ。

(中略)

かつて私は、企業の研究所で働く研究者や技術者にインタビューをして回ったことがある。彼らに対して、「仕事で楽しいとき、ワクワクするときはどんなときか？」と聞いてみた。すると、自分が開発した製品が消費者に受け入れられたときや、他社のライバルたちが驚く姿を想像したときだ、という答えがたくさん返ってきた。

逆に、自分が開発した技術や製品が不評だったり、だれも無関心だったりしたら、「楽しい」とか「ワクワクする」といった気持ちが保てるだろうか？ おそらく楽しさもワクワク感も失せてしまうに違いない。

もちろん研究者や技術者にかぎらない。「お客さんに喜んでもらいたい」「仲間と楽しく働きたい」という人は多いが、それだけで客や仲間から感謝されたり、認められたりすることが前提になっている。

このことから、内発的モチベーションさえ多くの場合、承認によって支えられていることが理解できよう。

また承認を失えば自己効力感、すなわち「やればできる」という自信が消える。すると何ごとにも消極的になり、物事に挑戦しようという意欲はわなくなるはずだ。

さらに、承認されないと自分の評価や処遇に対する不満が強まる。その一方で成績は下がっていく(承認されると成績が上がった事実を思い出してほしい)。しかも成績が下がればいつそう承認されなくなるので、ますます成績が下がるという悪循環に陥るだろう。そして働き続けるのがいやになり、仕事を辞めたいと思うようになるかもしれない。

実証研究に基づくエビデンスからだけでも、以上のような推測が成り立つわけである。

(中略)

俗っぽい話だが、他人を思うように動かしたいという支配欲や、豊かで安定した生活を送りたいという安全・安定の欲求、異性を引きつけたいという欲望なども承認によって満たされるケースが多い。したがって承認されなくなれば、それらも失う可能性が高い。

人によつては、そんなものにこだわる必要はないと思うかもしれない。

認められたことがどうしても負担になるなら、認められて得たものをすべて返上すればよい。自分自身を振り返ってみても、認められなかったからといって、とくに大きな不満があったわけではないし、役職に関していえば、平社員のところだってけっこう楽しくやっていたではないか。はたからは、そのように思われるかもしれない。

しかし、それほど簡単には割り切れないのが現実なのだ。いま役職に就いている人は必ずしも就きたくて就いた人ばかりではない。にもかかわらず、多くの実例が物語っているように、役職の地位を奪われるとなると大多数の人が反発する。また会社や役所

では、以前から組織をフラット化、スリム化しようと試みるが、管理職のポストが減ることへの激しい抵抗があつてなかなか進まない。

(中略)

認められたらそれに縛られ、承認を手放せなくなる。そして苦しむ。多くの人は、そのことを経験的に学んでいく。なかには、そうした事態に陥らないため、あらかじめ自己防衛の行動をとる人もいる。一つは、過大な評価を受けないよう、わざと自己評価を下げようとする行為である。

代表的なものとして、「セルフハンディキャッピング」という行為があげられる。

E、大事な試合の前には、必ずといってよいほど体のどこかを痛めたとか、体調が悪いといったふりをする人がいる。わざと周囲に期待を抱かせないようにしているのだ。「けがをしているのだから勝てないだろう」と思わせたいわけである。これといった大きな故障がないにもかかわらず、いつも手や足にサポーターを巻いたり、体に絆創膏を貼ったりしているスポーツ選手は、もしかすると「期待しないでください」というメッセージを送り続けているのかもしれない。

サラリーマンの世界でも同じような光景が見られる。かつて私が役所にいたころ、大事な会議の前日にかぎって大酒を飲み、当日は必ずといってよいほど二日酔いでやってくる人や、プレゼンの日が近づくとなぜか風邪を引く人がいた。また昇任試験の直前にもかかわらず家族旅行に出かける人もいたが、いま思えば同僚と家族の両方に「期待しないでほしい」とアピールしていたのだろう。

わざと無能を装ったり、「ワル」ぶったりして自分の値打ちを下げる行動をとる場合もある。素直な優等生だった子が思春期になつて突然、髪を赤や黄色に染めたり、乱れた服装でうろついたりするようになることがある。思春期は「自律の危機」に敏感になる時期だけに、このままでは親や教師の期待に操られてしまうと感じてわざと反抗し、期待を抱かせないようにしているのである。

若者にとって期待のプレッシャーがいかに大きいかは、意識調査にもあらわれている。

ライオン株式会社が二〇一二年に行つた「新社会人のプレッシャーに関する意識調査」によると、新入社員時代にプレッシャーを感じた、心に重くのしかかる上司の言葉として「期待しているよ」が三位に入っている。とりわけ若い人にとって、期待をかけられることはありがたい反面、迷惑なものようだ。

承認の重荷から逃れようとする、もう一つの方法はあらかじめ評価の下落を防いでおく行為である。

先に説明したセルフハンディキャッピングには、あらかじめ大きな期待を避けられるのを防ぐとともに、失敗したときに自己評価が大きく低下することを予防しようという意図も含まれている場合が多い。たとえ失敗しても、「体調が悪かったので実力が発揮できなかっただけだ」「実力はあるのだけれど、勉強しなかったから落ちたのだ」と思ってもらいたいのである。

ところで、小中学校の教育現場では、「努力をほめるのはよいが、能力や成果をほめるのは控えたほうがよい」とよくいわれる。能力や成果をほめられた子どもは、期待を裏切らないため、そして自信をなくすのが恐いため、失敗のリスクをとまなうものに挑戦しようとしなくなるからである。

しかし、だからといって努力をほめればよいかというと、そうとも言い切れない。なかには努力をほめられると「がんばらないといけない」というプレッシャーで学校に行けなくなる子がいるし、逆に効率的な努力かどうかを考えず、がむしやらにがんばつてしまう子もいる。

どのようなほめ方が望ましいかという議論はとりあえずおくとして、学校に行かないというのは見方によればプレッシャーへの一つの対処方法である。また、先に述べたような自己防衛のための異常にも映る言動（セルフハンディキャッピング）も、自分が置かれた状況に対処するために必要だったとも考えられる。むしろこのような自己防衛的行動をとらず、周囲の期待を真正面から受け止めてしまう人が危ない。

ところで、大きな承認を得ている人ほど、承認されなくなつたときに失うものも多いのが普通だ。したがって先に取りあげたメダリストや成功者の場合、一般の人以上に呪縛は強くなる。(中略)

彼らがどれだけ精神的に追いつめられ、苦悩を味わったかを理解するため、彼らの置かれた立場に立って考えてみよう。

成功者や有名人にとって重要な存在は、やはりファンや応援してくれる多くの人々である。

ファンは、好きなスポーツ選手や芸能人を、ある意味で自分と同一視する。好きな選手が活躍すれば自分が活躍したような気分になって元気がでるし、好きな歌手の歌がヒットすれば自分のことのようにうれしい。だからこそAKB 48のファンは、なけなしの小遣いをはたいてでも応援する歌手のCDを買い、投票権を得て総選挙で勝たせようとするのである。

成功者や有名人の後ろには、このようなファンが数え切れないほど存在する。ちなみに芸能情報によると、ジャニーズのなかでも絶大な人気を誇る嵐のファンクラブ会員数は二〇〇万人を超えろといわれる。それだけの人が自分たちの歌、踊りや演技に夢中になっているのだ。

さらに純粋なファンだけでなく親や親類、同級生たちのなかにも自分のことを誇りにしてくれる人がたくさんいる。もちろん、なかにはねたむ人もいるだろうが。

成功者や有名人たちは、彼らのこうした期待を一身に背負っている。そこにあるのは「落胆させてはいけない」「期待に応えなければならぬ」という消極的あるいは受け身の承認欲求である。そのプレッシャーが一般の人に比べて格段に重いのである。

F

病気で余命幾ばくもない作家が読者を裏切らないため、芸能人がファンをがっかりさせないため、残された時間と体力を振り絞って仕事をする姿を見ると、その期待がどれだけ重いか想像できよう。

要するに成功者や有名人の場合、「認知された期待」が大きいうに、背後にどれだけの人がいるかを考えたら、簡単に期待を裏切ることができないのである。

ここでは象徴的な存在として有名人や成功者に注目してみた。しかし、彼ら^Gが感じる呪縛は一般の人とまったく別次元かという^Gと、そうではない。

たいていの人は学校を卒業し、社会に出て仕事に就き、職業生活でキャリアを積んでいくにつれて、知らず知らずのうちに仕事上で受ける期待が増していく。家庭や地域、親族関係などから受ける期待もだんだん大きくなる。それにともなう誇りやプライドも膨らんでいく。

つまり無意識のうちに期待の重荷を背負っているのである。年とともに義理や恩のしがらみが増えていくのもそのあらわれだ。そして大きくなった期待を容易に下げられないのも、すでに説明したとおりである。

（太田肇『承認欲求』の呪縛』新潮社 二〇一九年より引用 問題作成の都合上一部変更）

問一 空欄部 A、B、E に入る語句の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 13。

- | | | | |
|---|--------|-------|--------|
| ① | A…そのため | B…よって | E…ただし |
| ② | A…そのため | B…だが | E…すなわち |
| ③ | A…ところで | B…しかし | E…要するに |
| ④ | A…たしかに | B…しかし | E…たとえば |
| ⑤ | A…たしかに | B…そして | E…さらに |

問二 傍線部 C「失われる」とあるが、ここで失われるものの具体例として不適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 14。

- ① ライバルたちが驚く姿
- ② ワクワク感
- ③ 物事に挑戦しようという意欲
- ④ 客からの感謝
- ⑤ 自分の評価への満足度

問三 傍線部 D「自己防衛の行動」とあるが、その行動の例として不適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 15。

- ① 大事な試合の前に体調が悪いふりをする。
- ② 管理職のポストが減ることに抵抗する。
- ③ 大事な会議の当日に二日酔いでやってくる。
- ④ 髪を赤や黄色に染める。
- ⑤ 昇任試験直前に家族旅行に出かける。

問四 空欄部 F には、次の枠内のイ～ホで構成された文章が入る。論旨が通る順に並べ替えたものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 16。

イ しかし現実には自分を陰で支え、自分の存在によって生活している関係者がそれを許さないことは容易に想像できる。
ロ まるで「走れメロス」の主人公のような心境だったに違いない。
ハ おそらく逃げようとか、あきらめようと思ったこともあるだろう。
ニ そして、それから逃げようにも逃げられない。
ホ さらに期待しているファンや家族、友人たちの落胆する姿が脳裏に浮かび、気を引き締め直していたのではなかろうか。

- ① ハ ↓ ホ ↓ イ ↓ ロ ↓ ニ
- ② ハ ↓ ホ ↓ ロ ↓ ニ ↓ イ
- ③ ハ ↓ ニ ↓ ロ ↓ イ ↓ ホ
- ④ ニ ↓ ハ ↓ ホ ↓ イ ↓ ロ
- ⑤ ニ ↓ ハ ↓ イ ↓ ホ ↓ ロ

問五 傍線部 G「彼らが感じる呪縛は一般の人とまったく別次元か」というと、そうではない。」と筆者が考える理由は何か。空欄部を次の形式に従って四十文字以内で記しなさい。ただし、「キャリア」「無意識」「周囲」という三語を必ず用いること。
解答は 国語解答用紙。

一般の人も、四十文字以内から。

問六 本文の内容として適切なものを、次の①～⑤の中から二つ選びなさい。解答番号は 17。

- ① 承認欲求は芸能人でも一般人でも心を整える万能薬として機能している。
- ② 承認欲求の呪縛をもたらす要因は本人が実際にどれだけ期待されているかによる。
- ③ 期待のプレッシャーを真正面から受け止めることは危険である。
- ④ スポーツ選手や芸能人は見えない期待に捉われやすい。
- ⑤ 承認欲求の呪縛から人は逃がれない。

問七 次に掲げるのは、本文の内容をふまえニュースで話題となった出来事について話し合った生徒達の会話である。会話の空欄部イ～ハに当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 18。

生徒A SNSでバズっていた動画、見た？
 生徒B 飲食店で迷惑行為をしている様子を撮影した動画だよ。見たよ。
 生徒C どうしてあんな動画をSNSに公開しちゃったんだろう？
 生徒A 投稿者たちはもしかしたら イ にとらわれていたんじゃないかな。
 生徒B 確かにそれはあるかもね。最近はSNS疲れの人も増えてきているみたいだよ。
 生徒C SNSでつながっている人たちの ロ を認めて、ハ を感じてしまっているのかもしれないね。
 生徒A その ハ から自分の身を守るためにはどうしたら良いんだろう？
 生徒B SNSから離れてみることは自己防衛行動の一つになるかもしれないよ。

- ① イ…呪縛 ロ…期待 ハ…承認欲求
- ② イ…抑圧 ロ…期待 ハ…承認欲求
- ③ イ…承認欲求 ロ…呪縛 ハ…期待
- ④ イ…承認欲求 ロ…期待 ハ…重圧
- ⑤ イ…期待 ロ…承認欲求 ハ…抑圧

問八 次の1～5の傍線部にあてはまる漢字を、それぞれ①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 19 ～ 21。

- 1 資金がコカツしてしまわないようにする。 19
- ① 喝 ② 渴 ③ 克 ④ 活 ⑤ 割
- 2 度重なる差別発言により大臣がコウテツされた。 20
- ① 送 ② 鉄 ③ 撤 ④ 徹 ⑤ 迭
- 3 人は何かを求めると、求められるものにホンロウされてしまう。 21
- ① 廊 ② 楼 ③ 朗 ④ 弄 ⑤ 浪

問九 次の問いに答えなさい。解答番号は 22 ～ 24。

- 1 「試行錯誤」の類語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 22
- ① 熟慮断行 ② 粒粒辛苦 ③ 即断即決 ④ 猪突猛進 ⑤ 軽率短慮

- 2 次の空欄部「 」に合う最も適切な語を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 23
- 自分の経験に「 」、後輩に助言をする。

- ① 鑑みて ② 勘案して ③ 思案して ④ 慮って ⑤ 類推して

- 3 「ポストモダン」の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 24

- ① 女性の社会的権利を男性と同等にして、女性の能力や役割の発展を目指す運動
- ② 人間の社会や文化を支えている根底的な構造を研究しようとする立場
- ③ 近代の原理を相対化することで、近代的な価値観から自由になることを試みる運動
- ④ 民族を単位として国家の統一や独立を目指す考え方
- ⑤ 生活・経済が情報を中心として発達していく社会